

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月12日

[評価実施概要]

事業所番号	0292500030
法人名	社会福祉法人貴望会
事業所名	グループホーム第二みほの
所在地 (電話番号)	〒039-3144 青森県上北郡野辺地町一ノ渡19-1 (電 話) 0175-64-1630

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年11月21日	評価確定日	平成22年2月12日

[情報提供票より] (平成 21年 11月 4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 12月 10日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計		18 人
職員数	15 人	常勤	15人, 非常勤	人, 常勤換算 15人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	6,000~秋冬期9,000 円
敷 金	有 (円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円 昼食 円	夕食 円 おやつ 円	
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (11月 4日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	7 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	71 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ちびき病院
---------	-------

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

住宅に囲まれた地域に立地しており、国道が近く外出の際の交通の便が良い。玄関に入ってすぐに広々としたホールがあり、利用者は自分の好きな場所でくつろいでいる。ホールの窓からは田んぼで作業する地域住民が見え、四季折々の景色が心を和ませてくれる。

[重点項目への取り組み状況]

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の課題となった緊急時の対応強化については、地域住民へは町内会長を中心とした連絡体制が整備された。また、緊急連絡網も電話の近くに掲示する等改善されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者が自己評価を行い、その後職員全員へ各項目について説明している。それについて話し合いを持ち、最終的な自己評価としている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は年2回を予定し、活動報告や今後の取り組みについて話し合っている。また、外部評価の結果も報告し、改善策等を話し合いサービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11) 多くの家族が頻回に面会に来るため、その際に現状を報告し、意見を伺っている。また、家族が遠くに住んでいる場合は、月に1度金銭管理報告書とともに、写真と近況を書面に書き送付している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣住民が気軽に訪問してくれたり、差し入れをしてくれる。また、地域行事へも積極的に参加し地域と交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を反映させた事業所独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングや玄関に理念を掲示し、いつでも目に入るように工夫している。また、申し送りやスタッフ会議で理念に立ち返り、話し合いをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣住民が気軽に訪問してくれたり、差し入れをしてくれる。また、地域行事へも積極的に参加し地域と交流を図っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	誰でも評価結果を閲覧できるように、玄関に掲示している。また、職員会議では評価に対しての改善策を話し合っている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーは家族、町内会長、地域包括支援センター、社会福祉協議会等で構成され、活動報告や今後の取り組みについて話し合っている。	○	会議の開催が半年に1度となっているが、おおむね2ヶ月に1回の開催が義務になっているため、今後の定期的な開催が望まれる。
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の健康福祉課の職員が介護相談員として定期的に訪れ、利用者からサービスに対しての意向等を聞き取りしている。		
7	0	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	マニュアルが作成されている。また、利用者の中にも、制度を利用している方がいる為、スタッフも理解している。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルが作成され、日ごろの業務のなかや申し送り、スタッフ会議等で確認されている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込み時に事業所に来て頂き、実際の雰囲気を感じていただいている。入居時には書面を使用し、わかりやすい言葉で説明している。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	多くの家族が頻回に面会に来るため、その際に現状を報告している。また、家族が遠くに住んでいる場合は、月に1度金銭管理報告書とともに、写真と近況を書面に書き送付している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、家族からの意向を聞くようにしている。また、外部にも相談窓口があることを伝えている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	極力異動は行わないようにしている。また、働きやすい職場を作るため、職員からの希望も考慮するようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年2回、研修会を開催している。また、外部研修へも参加し、参加後は報告を行っている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や地域のイベント等で他事業所と交流している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	実際の雰囲気を感じていただくため、入居前に見学してもらうようにしている。また、入居直後は家族へ面会や電話を多くして頂くよう協力をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から編み物や料理の作り方などを教わるなど、共に支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に生活歴を聞き取り、書面へ残し、いつでも見ることができるようにスタッフルームに保管している。また、日々の会話からも意向を聞き出すよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に家族から意向を聞き、それを踏まえ全職員参加のカンファレンスにて介護計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは3ヶ月に1度、介護計画は6ヶ月に1度見直しを行っている。また、状態変化時にも現状に即した介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診、外泊時の送迎を柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が希望するかかりつけ医への受診を継続して行っている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は看取りは行っていないが、出来る限り事業所で生活できるように、医師や家族と連携を図っている。	○	事業所での看取りが可能になるような体制づくりを検討課題として認識されているため、今後の取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄などの声がけ時には、周りに聞こえないように配慮した声がけを行っている。	○	居室のドアにスモークの掛かった小窓があり、そこから中の様子が見えるようになっており、見回り時に使用しているとのことであるが、必要時以外は居室内が見えないような工夫が望まれる。
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが、やりたいこと、過ごしたい場所を選択し生活している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は準備や後片付けを手伝ってくれている。また、利用者と職員は会話を楽しみながら一緒に食事をしている。	○	食事のメニューは、栄養士が作成しているため、利用者の意見も反映されるような取り組みを期待したい。
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回が基本となっているが、利用者から希望があれば、いつでも入れるように柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	茶碗拭きやおしぼり畳み、花の世話など、利用者一人ひとりにあった役割を持って頂くように配慮している。また、全体でもレクリエーションを行い、利用者の笑顔に繋げている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	屋外への散歩や、町内外へのドライブを企画し外出を支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルが作成され、日ごろの業務のなかや申し送り、スタッフ会議等で確認されている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人で帰宅しようとする利用者が複数いるため、家族の了解を得て昼夜カギを閉めているが、利用者が玄関付近へ向かった場合は外出の希望を聞き、その都度外出できるようにしている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施している。また、緊急時に住民へ連絡出来る体制を整えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量と水分量をチェックし、状態把握に努めている。また、栄養士の作成したメニューを提供し、栄養のバランスを取っている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルが作成され、日ごろの業務のなかや申し送り、スタッフ会議等で確認されている。また、来客へうがい・手洗いをして頂くよう、啓発のポスターを貼るなど予防に努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールを2ユニットで利用しているため、広々とした空間となっている。また、季節に合わせた飾り付けをするなど工夫されている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた家具を持ってきて頂けるようにお願いしたり、家族の面会時に一緒に撮った写真を飾り、居心地の良い環境作りをしている。	○	事故防止（ベットからの転落等）及び不眠の方（近くに誰かいないと眠れない方）に対してホールにベットを設置し、職員が見守り対応しているが、出来るだけ居室で過ごす事が出来るよう更なる検討を期待したい。

※  は、重点項目。